

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立野村高等学校  
学校番号(39)

評価実施日		令和6年2月26日(月)	
委員	氏名		備考
	井上 恵一	野村石油(株)代表取締役	
	熊谷 琢磨	(有)フローラルクマガイ代表取締役	
	徳村 学	西予自然牧場	
	山岡 三枝	西予市野城総合福祉協会事務局長	
	吉川 多賀子	まごころ銀行運営委委員	
	大野本 敦	西予市野村支所長	
	岡部 一行	城川中学校教頭	
	酒井 康次	西予市野村支所産業建設課長	
	谷本 英樹	有限会社タニヤ代表取締役	
西田 卓史	野村中学校教頭		
評価・提言等		提言等に対する改善方策等	
今年度の最終評価について			
(1) P T A 活動 ・PTA活動も生徒数減(保護者数減)の中、地域と一体となり頑張っている。 ・生徒・保護者・先生方・地域との距離を縮める活動ができています。 ・地域・保護者への情報発信に工夫をして欲しい。保護者同士の交流も深めて欲しい。		・高校祭でのPTA研修会の参加人数が増えるよう、昨年度・今年度と新企画を考え好評であった。今後も生徒が参加できる形も含めて企画を検討したい。 ・毎月発行する「緑ヶ丘通信」や年2回の「薫風」において、学校行事やPTA行事の内容、生徒の活躍、保護者の声をどんどん掲載していきたい。 ・ホームページの更新数の増加を図りたい。	
(2) 学習指導 ・数学のレベルが高いとの評は良い。 ・欠席率の上昇、皆勤率の低下が気になる。皆勤率の低下は生徒数減の母数減少も影響があると思うがしっかりと指導して欲しい。生徒・学校・家庭の連携を心掛けて欲しい。 ・昔の野村高校は学習指導に定評があった。生徒数減を生かし、丁寧な対応ができるのではないか。進学実績等が出れば学校魅力の向上につながる。 ・家庭学習の内容もしっかりと考えて欲しい。		・コロナ5類移行の影響、インフルエンザの流行などにより、欠席率・皆勤率低下に影響があった。学習指導の観点からも教員による健康観察等を強化していきたい。 ・家庭学習習慣を身に付けることの重要性を継続して指導し、生徒数が少ないことを生かした教科指導や個別指導を今後も行っていきたい。また時間だけでなく、課題内容の精選による質の向上も図りたい。 ・少人数学級の利点を考え、ICTの活用など生徒一人一人に着目した教科指導等を考えていきたい。	
(3) 生徒指導 ・気持ちの良い挨拶、身だしなみができている。地域の模範となっている。 ・いじめや人権侵害等の問題は本当に起こっていないか常にアンテナを張り、早期対応を心掛けて欲しい。 ・時代に即した校則・規則が求められている。校則に変更もあったようなので、その点はしっかりと説明して欲しい。 ・交通マナーについてはやや問題があるのではないかと。		・地域に愛される生徒となるよう今後も挨拶を心掛けさせていきたい。 ・身だしなみに関しても現在非常に落ち着いているが、規則に関しては時代に即したものとなるように改善を図っていきたい。今年度は制服や鞄に関して見直しを行った。頭髪等も検討していきたい。 ・HP等を通じて、地域や保護者にもしっかりと説明していきたい。 ・いじめ、人権侵害は「ない」ことを意識するのではなく、「あるかもしれない」という意識をもって、常に敏感に対応していきたい。 ・交通マナーについては、保護者と連携した交通安全指導、バイク通学生指導を適宜行っているが、再度呼びかけ等の強化を図りたい。	
(4) 特別活動(生徒会活動、学校行事等) ・相撲部・畜産科等の全国大会や四国大会等の大きな大会での成果が素晴らしい。 ・復興ワークショップへの参加や文化祭での軽トラ市、農業体験など地域の人たちや小学生等と一緒に野外活動をしているのが素晴らしい。 ・様々な活動や自主的な活動ができる学校環境であり、継続してほしい。		・ご指摘のように全国・四国大会での実績なども上がっており、HP等を工夫して、地域・全国にしっかりとアピールしていきたい。 ・生徒数減少に伴い、部活動の精選を図りながら、それぞれの部活動が今まで以上の結果を残せるように取り組みを強化していきたい。 ・コロナ5類移行により、従来の活動が可能になりつつあるので、生徒を中心とした活動を更に充実させたい。	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
<p>(5) 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒減の中でも推薦入試で6名の国公立大学合格者がでており、1名は畜産科から出ている。素晴らしい、取組の成果が感じられる。</li> <li>・面接指導の充実が感じられる。</li> <li>・就職に関してはミスマッチなどもあるので、本人・家庭・学校の早期の連携を考えて欲しい。</li> <li>・生徒数減を生かした丁寧な対応を心掛けて欲しい。後悔することないよう進路決定して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学の総合型・学校推薦型入試について計画的に運営することが出来た。今年度の動きを検証し次年度に生かしたい。</li> <li>・進学実績の向上は学校魅力化に直結するため、面接指導など、全校体制での指導体制を考えていきたい。</li> <li>・大学訪問なども可能になり、生徒のモチベーションの向上を図ることが出来た。今後も企画していきたい。</li> </ul>
<p>(6) 保健管理・教育相談・特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ重症化の話もあまり聞かなくなったが、発生はいまだにある。感染症対策はしっかりと継続して欲しい。</li> <li>・精神的要因による体調不良の把握に努めている様子があるが、早期対応をよろしくお願ひします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して行う「悩みの調査」だけでなく、普段の様子や保健室の利用頻度、発言内容などから、体調や心の状態の把握につとめ、悩みを抱えている生徒について担任、養護教諭だけでなく、学校全体で状況を把握して対応できるように努めたい。</li> </ul>
<p>(7) 読書指導・情報教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体で読書時間を設定しているのは良い。今後も継続してほしい。</li> <li>・平均貸出数が伸びている。読書好きな生徒に偏ることなく、読書をする生徒が増えていることうかがえる。</li> <li>・一人一台端末の有効活用に今後も取り組んで欲しい。SNSのいじめなどの問題も気になるのでしっかりと指導をして欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子図書サービスを利用する読書についても、積極的に働きかけをし、読書指導を行っている。</li> <li>・一人一台端末については、継続して有効的な活用について模索していきたい。若手教員に積極的な活用が見られており、全職員レベルで情報共有を図りたい。</li> <li>・デジタルツアーの問題を指導するなどして、適切なネットマナーを指導していきたい。</li> </ul>
<p>(8) 人権・同和教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流活動により様々な生活状況の方と触れ合うことは多様性の理解のためにも良いことではないかと思う。SNSの適切な利用のためにPTAとの協力して指導を行って欲しい。差別に対して正しく理解するためにも、学習を継続させることが大切。障害者支援施設等との交流も有効であるので実施してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットによる人権侵害について、ホームルーム活動等でも重要な課題として取り扱う方法を考えていきたい。</li> <li>・SNSの適切な利用については1年時に外部講師を招き指導しているが、適宜そのような機会を増やしていきたい。</li> <li>・本年度は福祉施設との交流を文化祭で行うことができた。今後も異世代の人や外国人との交流等の体験の機会を、多くの生徒にもたせられればと考えている。</li> <li>・全ての生徒が本音で自身の考えを述べられるような雰囲気づくりを大切にしたい。</li> </ul>
<p>(9) 学校魅力推進（全国募集、寮・下宿等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに全国へのPRを強めて、生徒募集の強化を図って欲しい。</li> <li>・地元の間も全国に向けて地域のブランド力を発信しており、野村高校生も積極的に参加してもらっている。すぐには成果は出ないかもしれないが、継続して共に粘り強く取り組んで欲しい。</li> <li>・R5年度も4名の入学生がおり、成果は着実に出ている。学校・行政・地域の連携が今後も必要である。</li> <li>・バスツアーの参加者をもっと増やせるように努力して欲しい。</li> <li>・全国募集も大事ではあるが、地元中学へのアピールもお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度畜産科では養蚕に関する授業を取り入れ、来年度は愛玩動物選考の設置、酪農教育ファームの取得、大学・専門学校等の高等専門機関や地元団体との連携など、魅力を高める取組の計画を行っている。これらの情報発信に努めていきたい。</li> <li>・本年度は、地域みらい留学の活動において、生徒自らが本校の良さを発信する機会が持てた。来年度も引き続き、積極的に本校をアピールしてくれる生徒の発掘に努めたい。</li> <li>・効果的なアピールを行うには、住居環境（寮・下宿）の整備を行い、それを全国に発信するのが最も良いと思われる。新女子下宿の立ち上げも始まっており、次年度入学生確保のアピールポイントとした。</li> <li>・地元貢献する人材の育成は、今後も「総合的な探究の時間」の復興まちづくりワークショップや菜園共創プロジェクト、様々な学校行事の中で、発展的に行っていくようにしたい。</li> <li>・県外生徒の出身中学の視点はなかったため、現在活躍中の先輩の様子を伝えつつ、志願者を募る工夫をしてみたい。</li> </ul>